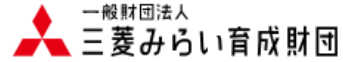




PDA 即興型英語ディベート京都交流講習会 2024

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）



開催日時：2024年7月20日（土）13：30～17：00

会場：日吉ヶ丘高等学校+オンライン（Zoom）ハイブリッド開催

参加校：8校、10チーム（京都府立嵯峨野高等学校、京都市立堀川高等学校、京都市立開建高等学校、京都府立鳥羽高等学校、京都市立日吉ヶ丘高等学校）

参加者：生徒33名、教員13名

スタッフ：PDA スタッフ、東京大学、北海道教育大学、広島大学、アメリカ創価大学、PDA 認定教育ジャッジ

はじめに、PDA 代表理事の中川智皓より、「様々な価値観を踏まえてプランを考え、生身の相手に的確に伝える力が今後一層求められます。ディベートを通して、その力を付けることができます。今日の講習会を通して、知見を広げてください。」と挨拶があり、本講習会が開会しました。続けて、京都市立日吉ヶ丘高等学校の太山陽子校長先生より、「論理的思考力、表現力は将来にわたり大事な力です。他者との協働、創造力、問題解決力、共感力はAIにはない人間ならではの素晴らしい特性です。今日は勝つことだけでなく、同年代の仲間たちから学び、共に切磋琢磨し成長することも目的にがんばってください！」と英語で激励いただきました。渋谷教育学園渋谷中学高等学校の北原隆志先生からも「他者への思いやりと色んな方への感謝を大事に」との挨拶をいただき、参加校の紹介、ジャッジの紹介の後、POI(Point of Information) の練習を参加者全員で行いました。



太山校長先生による開会挨拶



全員で元気よく POI !

POI の練習が終わると、早速第 1 ラウンドの開始です。論題 “Cashless payment should be mandatory. (キャッシュレス決済を義務化すべきである。)” が発表されました。肯定側も否定側も、より安全で便利な決済方法はキャッシュレスと現金のどちらかという点について、肯定側はキャッシュレス決済が犯罪抑止や海外からの利用者にも便利な点を述べ、否定側はキャッシュレス決済の災害時の脆弱性やシステムハッキングの危険性を強調しました。ラウンド後は、議論を交わした対戦相手に感謝を気持ちをこめて握手をします。ジャッジコメントを待つ間、生徒たちは、普段どのようにディベート練習を行っているのか、また兼務している部活動の話などを和気あいあいと共有し、笑顔がこぼれます。その後、PDA ジャッジから (1) 勝敗 (2) 勝敗の理由 (3) 1 人 1 人への個人コメント (良かった点と次の第 2 ラウンドにいかすことのできる改善点など) が述べられました。



日吉ヶ丘 B 対 堀川 B

開建 対 鳥羽 A

続く第 2 ラウンドの論題は、“We should introduce a female quota in university admissions. (大学入試に女性枠を設けるべきだ。)” でした。肯定側は、現状がいかにか男性優位に偏っているかを分析し、女性枠を導入する必要性とメリットを主張しました。否定側は、一生懸命勉強し大学入試の準備をしてきた男子学生に対する逆差別であり、不公平であることをジェスチャーも交えて主張しました。第 1 ラウンドでは出なかった POI を活用し、質疑応答をする場面も見られました。また、第 1 ラウンドのジャッジコメントを早速スピーチに生かす生徒も多く、その成長スピードに驚かされます。ディベートが終わると、相手チームのスピーチの上手さを褒めたり、学年の違いを超えて交流する様子も見られました。



嵯峨野 A 対 開建

堀川 B 対 嵯峨野 C

短い休憩をはさみ、ジャッジが高く評価した生徒 6 名によるエキシビションディベートです。論題「We should study abroad in the UK in high school. (高校時代にイギリスに留学すべきである。)」が発表され、オーディエンス全員がジャッジとして参加することも伝えられました。チェアパーソンは京都府立鳥羽高等学校のミュリーニコラス先生です。肯定側は、イギリスに留学することでアメリカ英語ではなくイギリス英語を習得できることや治安の良さを主張しました。否定側は、安全に英語を学べる国は英国だけでなく他にもあることを具体的な国名を挙げて反論した上で、自分が学びたい国で自己成長や夢の実現のために自分が学びたい国を自分で選び留学する重要性を説明しました。

ジャッジとしてディベートを聴いた生徒たちと教員の挙手投票により、否定側の勝利となりました。



エキシビションディベートの様子

閉会式では、表彰が行われ、校長会を代表して京都府立東宇治高等学校の野村康隆校長先生より「論題に対して、肯定・否定の立場に分かれて根拠となる理由を論理的に分かりやすく伝えるディベートの力は、これからの社会で活躍していく皆さんに必要な力です。意見や考え方が対立した時にしっかりと聞き、話し合い、妥協点や最適解を共に見つけていくことはとても大事。来年度も是非参加してもらいたい。」との講評を賜りました。また、2 回ベストディベーター賞を受けた生徒より、「他校の人たちとこうやってディベートを通して交流できる機会はとてもありがたい。自分らしくディベートが出来て、本当に楽しかった。」「3 年生なので、この講習会をもってディベート部を引退しますが、初めて 1 位になれてベストディベーター賞ももらえて、達成感を感じています。」などと感想が述べられました。11 月の京都交流大会でまた会いましょう！という岡本先生の声かけに、参加した皆さんが笑顔で応え京都交流講習会 2024 は閉会しました。



【表彰】

〈エキシビションディベータ賞〉

PM _____さん（開建高校）

LO _____さん（鳥羽高校）

MG _____さん（嵯峨野高校）

MO _____さん（嵯峨野高校）

PMR _____さん（堀川高校）

LOR _____さん（日吉ヶ丘高校）

〈チーム賞〉

・ 1位 嵯峨野高校 A

・ 2位 嵯峨野高校 C

・ 4位 堀川高校 B

・ 3位 嵯峨野高校 B

・ 5位 堀川高校 A

〈ベストディベータ賞〉

・ _____さん（嵯峨野 C）★

・ _____さん（日吉ヶ丘 B）

・ _____さん（鳥羽 A）

・ _____さん（開建）

・ _____さん（堀川 B）

・ _____さん（嵯峨野 B）

・ _____さん（嵯峨野 B）

・ _____さん（嵯峨野 A）★

・ _____さん（日吉ヶ丘 B）

・ _____さん（開建）

・ _____さん（堀川 B）

・ _____さん（堀川 A）

・ _____さん（嵯峨野 B）

〈ベスト POI 賞〉

・ _____さん（嵯峨野 A）

・ _____さん（嵯峨野 B）

参加者の声（アンケートより抜粋）

- エキシビジョンマッチでは本当に学びが多くて、特に嵯峨野高校の方がはっきり堂々と喋られていたのが印象的でした。学校のチーム同士ではなく、違う学校の生徒がチームになって議論するのがとても良かったです。（堀川高校）
- ディベート中みんな真剣に人の意見を聞いていたり、楽しんでいる人を何人も見て自分も楽しくなった。英語の話す機会があんまりないので、こうやって皆んなで話してみても聞いてみてとても良い経験が出来たなと感じた。（開建高校）
- 毎月開催希望です！（堀川高校）
- 色々な人の意見や自分が足りないところを学べた。良い緊張感でディベートを行えた。（鳥羽高校）
- 「2年後に、今日対戦した3年生のように話したい」という目標が出来たから、とても良い経験でした。秋も参加したいです。（開建高校）
- チームで戦う楽しさがあった。みんな色々な知識を持っていて、表現も内容もすごく工夫されていて、圧倒された。（日吉ヶ丘高校）
- 冷や汗出過ぎて2キロぐらい体重減った気がする。今回ジャッジの人に言われたアドバイスを次に活かしたい。（鳥羽高校）
- ディベートを通して違う視点や新しい意見について知れ、考えが深まった。他校との交流は初めてで、ディベートも始めてだったので緊張しましたが、実戦経験を積むことができ良かったです。また今日の勝利や講評が自分の自信や論題理解を深めることにもつながりました。（嵯峨野高校）
- 準備時間が大事だとおもった。他校の生徒の皆さんと交流することができて楽しかったです。また参加したい。（日吉ヶ丘高校）
- 自分らしくディベートが出来たし、他の高校の人や後輩と仲良くなれました。とても学びのあるディベートが出来ました。初めてのエキシビジョンディベートでしたが、精一杯やり切ることが出来たので良かったです。（嵯峨野高校）
- パーラメンタリーディベート参加は最初の一步が勇気が入りますが、生徒を参加させて本当に良かったと思います。生徒が粘り強く取り組んでいる姿が見られました。（教員）
- 理由を二つ述べるので、より多角的な視点を短時間で作戦会議しているのを見れてとても面白かったです。今日は生徒引率なしで参加しましたが、ぜひ生徒を連れてきたいと思いました。（教員）